

# 令和4年度第1回総合教育会議

日 時：令和4年7月26日(火)15時30分～  
場 所：千住生活館

1 開会挨拶

2 協議事項

- (1) アイヌ政策推進交付金を活用した施設整備と展示計画について（資料1）  
※ 敷地外構及び幕別町蝦夷文化考古館を視察

- (2) 幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について（資料2）

3 その他

4 閉 会

## アイヌ政策推進交付金を活用した施設整備と展示計画

## 1 事業の進捗状況

## (1) 文化振興事業

- ① 国内主要博物館幕別・十勝アイヌ民具及び儀式等調査
  - ・調査期間 6月29日(水)～30日(木)
  - ・調査職員 添田雄二主幹、阪口諒学芸員
  - ・調査内容 民具資料調査(東京駒場)  
来年度事業・ワークショップ打合せ(目白漆学舎)  
写真資料調査(早稲田大学演劇博物館)  
陣羽織修繕打合せ(東京国立博物館)
- ② 幕別からアイヌの未来を考えるシンポジウム
  - ・日時 8月11日(木祝) 18:30～20:00
  - ・場所 幕別町百年記念ホール 講堂
  - ・基調講演 「アイヌ政策推進交付金事業がアイヌ社会にもたらしたもの」
  - ・講師 一般社団法人阿寒アイヌコンサルン理事長 廣野 洋氏

## (2) 地域・産業振興事業

- ① アイヌ文化に関する展示会の開催(令和5年2・3月に開催予定)
  - ・展示ケースの作成

## (3) コミュニティ活動支援事業

- ① 多機能型交流施設(生活館棟、展示館棟)の基本計画(基本設計含む)
- ② 千住生活館解体設計
- ③ 蝦夷文化考古館保存改修設計
- ④ アイヌ文化拠点空間整備アドバイザー会議
- ⑤ 常設展示シナリオ作成会議

## 2 プロポーザルスケジュール

## (1) アイヌ文化拠点空間整備事業基本計画策定業務プロポーザル

- ・5月19日(木) 第1回幕別町アイヌ文化拠点空間整備事業基本計画策定事業者選考委員会開催(プロポーザル実施要領について審議)
- ・27日(金) プロポーザル実施公告
- ・6月1日(水) 参加表明・企画提案に関する質問書の提出期限
- ・6日(月) 3社から延べ23件の質問に町ホームページで一括回答
- ・10日(金) 参加表明書提出期限(4社が提出)
- ・17日(金) 4社ともに参加資格条件を満たしていたことから企画提案書の要請通知を送付
- ・27日(月) 4社が企画提案書を提出
- ・7月1日(金) 4社にプレゼンテーションの参加要請通知を送付  
町ホームページにプレゼンの実施を掲載し傍聴希望者を募集
- ・12日(火) 第2回幕別町アイヌ文化拠点空間整備事業基本計画策定事業者選考委員会開催(最終審査の評価方法について審議)

- 13日（水） 第3回幕別町アイヌ文化拠点空間整備事業基本計画策定事業者選考委員会開催（プレゼンテーション及び最終審査）

審査結果

評価項目	アトリエブク	岡田設計	C社	D社
類似業務の実績	90	90	90	90
業務執行の妥当性	67	39	66	56
業務実施方針の具体性	189	126	144	108
企画提案の優位性	172	231	144	132
合計点数	518	486	444	386
順位	1位	2位	3位	4位

(2) 今後のスケジュール

- 7月下旬 業務委託契約の締結（随意契約）

3 一体的整備での課題

- 国道から施設に入る左折帯、右折帯の設置に向け関係機関との協議が必要
- 国道38号線から施設入口場所の設定
  - 千住橋からの施設にかけて下り勾配のため安全を確保した入口の設定が必要
  - 生活館側の入口から大型バス等が出入りする際高低差の解消が必要
- 幕別町洪水ハザードマップで計画地は0.5～3mの浸水想定地域
- 十勝平野断層地震では最大震度7が想定され、液状化発生のリスクも指摘されている

4 アイヌ文化拠点空間整備予定地（幕別町字千住 町有地面積5,522㎡）



生活館や展示館棟、チセ、野外作業棟等の延べ床面積は計1,500㎡規模を予定

# 幕別小学校と幕別中学校の今後の 小中一貫教育の進め方について

1	はじめに	2
2	幕別小学校及び幕別中学校の歴史及び特色のある教育活動	3
3	小中一貫教育の取組	4
4	児童生徒数の推移及び将来の見通し	6
5	施設整備の方向性	11
参考 1	幕別小学校配置図	12
参考 2	幕別中学校配置図	13
参考 3	幕別小学校平面図	14
参考 4	幕別中学校平面図	16

令和4年7月

幕別町教育委員会教育部学校教育課

## 1 はじめに

本町の小中学校の施設（以下「学校施設」という。）は、昭和50年代から帯広市のベッドタウンとして市街地の拡大により人口が増加したことに伴い、昭和50年代に多くが建築されましたが、それらの施設に老朽化の波が押し寄せており一斉に更新時期を迎えつつあります。

学校施設は未来を担う子どもたちが集い、生き生きと学び、生活する場であるとともに、地域住民にとっては生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動の場であり、災害時には避難所としての役割も果たす重要な施設です。

平成25年11月、国は「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、中長期的な維持管理・更新に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図る方向性を打ち出し、平成27年3月には、文部科学省が「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定しました。

本町においては、平成29年3月に「幕別町公共施設等総合管理計画」を策定し、中長期的な視点から計画的に公共施設の総量や配置の適正化を図り、町民に持続可能な行政サービスを提供していくために、公共施設の維持管理等の基本的な指針を示したところです。

それを受けて教育委員会では、令和2年11月に「幕別町学校施設の長寿命化計画」を策定し、従来の改築中心の維持管理方法から、長寿命化改修工事等による建物の長寿命化方針に切り替え、築約20年（または長寿命化改修から約20年）を迎えた建物について予防保全的な改修工事を行い、築約40年で長寿命化改修工事を行うことで、建物を約80年間使用できるように改修を行っていくこととしました。

計画に基づき、令和4年度から札内南小学校の校舎及び屋内運動場の長寿命化改修工事に着手していますが、計画的・継続的に学校施設の長寿命化を実施していくため、建築年数や劣化度調査などの結果を踏まえ、次期対象施設として幕別小学校校舎を検討してきたところであります。

「幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について」は、今後も、さらに小中一貫教育を進めるに当たり、「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性を検討するものです。

〔「まくべつ学園」とは、令和元年度に設置し、幕別本町地区の幕別小学校と幕別中学校で構成する「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」をいいます。〕

## 2 幕別小学校及び幕別中学校の歴史及び特色のある教育活動

### (1) 幕別小学校

幕別小学校は、昭和7年に現わかば幼稚園敷地に建築した校舎の改築を機に、近隣に所在する新川小学校、大豊小学校、西猿別小学校との統合が計画され、昭和51年度、幕別中学校隣接地の現幕別小学校用地の買収を行い、普通教室18、特別教室7、特殊学級教室1など延べ4,416㎡の鉄筋コンクリート造2階建ての校舎を2カ年で建設、昭和53年4月に新設開校し、鉄骨造981㎡の屋内運動場は開校後の昭和53年12月に完成しました。

また、昭和62年4月に新和小学校、平成8年4月に相川小学校が統合し、平成22年度には、校舎及び屋内運動場の耐震補強工事を実施し、現在は指定避難所にもなっています。

幕別小学校では、「未来に生きる高い知性と豊かな心情と強い意志をつちかい主体的に行動できる心身ともに健康な子どもを育てる」を教育目標として掲げ、「子どもの権利条例」の理念を実践の場で体現すべく、「子どもを真ん中にした学校づくり」を合言葉に、児童会活動や行事に向けた実行委員会の取組に、学びの中で身に付けた「話し合う力」を生かせるような教育活動のほか、教科担任制の実施など、特色ある教育活動を積極的に進めています。

### (2) 幕別中学校

幕別中学校は、昭和22年5月1日、幕別小学校の一部を借りて開校し、同年8月12日に、普通教室8など831.6㎡の校舎が完成、昭和24年に特別教室4を含んだ9教室を新築し、昭和26年には普通教室1、特別教室1を増築しました。

昭和36年には、老朽化著しい校舎を6カ年計画で新築に着手し、昭和41年12月に現幕別中学校用地に3,084.64㎡の校舎が完成、昭和57年から

2カ年で大規模な改修工事を実施したほか、昭和63年には鉄筋コンクリート造1,243㎡の屋内運動場の全面的改築を行い同年12月に完成しました。

平成4年には屋内運動場を除いて建替えを行い、鉄筋コンクリート造2階建、4,508㎡の新校舎は普通教室12、特別教室11を南側と北側に配置し、2階部分は廊下で結び、平成5年3月10日にプレハブの仮設校舎から現幕別中学校校舎に引っ越しが行われ、現在は指定避難所にもなっています。

幕別中学校では、「美しく たくましく」を校訓として掲げ、行事における異学年集団の「縦割り活動」、学力向上プランや年間・単元シラバスを活用した授業改善、習熟度別少人数指導やT T等の活用、長期休業中の学習教室の実施などの組織的な取組を行っています。

### 3 小中一貫教育の取組

#### (1) 本町の小中一貫教育

小中一貫教育については、平成27年6月の通常国会で、9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類である「義務教育学校」の設置を可能とする改正学校教育法が成立し、関係政省令、告示と合わせて平成28年4月1日に施行されました。

本町では、平成29年度に「幕別町小中一貫教育基本構想」を策定し、義務教育9年間を見通した児童生徒の育成をめざし、「小中一貫教育」を積極的に推進することとしました。

具体的には、小中一貫した学力体力向上、学習指導、学習常規、生活規範、特別支援教育等に関する確かな接続をはじめ、乗入授業や交流学習、合同研修会などの児童生徒、教師が触れ合える機会を設定するなどを進め、令和元年度からは町内各中学校を核とする5学園で「施設分離型」の小中一貫教育を推進しています。

#### (2) 「まくべつ学園」の小中一貫教育

「まくべつ学園」は、平成30年度の「幕別町小中一貫教育モデルエリ

ア指定（隣接型一貫校）」を経て、令和元年度に本格的にスタートしましたが、「未来を力強く生きる 自立した子どもの育成」を一貫教育の目標として掲げ、9年間の一貫した系統的な教育課程の編成を実施しています。

その他、中学校教員の小学校への乗入授業、小学生の中学校登校のほか、小学校と中学校が連携した児童生徒会活動を通じて、地域のお年寄りへの暑中しがきや年賀状を送る活動や清掃など地域ボランティア活動、毎朝のあいさつ運動、いじめ撲滅運動など、小中一貫教育に積極的に取り組んでいるところであります。

### (3) 「まくべつ学園」での取組の成果

「まくべつ学園」の小学校から中学校までの全国学力・学習状況調査結果の正答率の経年分析により、学力の上昇が確認されるなど、小中一貫を踏まえた指導による学力向上の成果が見られたほか、小学校と中学校の英検受検者が増加し、3級以上、さらには準2級以上を取得する児童生徒も増加するなど、乗入授業による効果が現れています。

### (4) 「まくべつ学園」の昨年度の乗入授業アンケート結果

小学校の教員では、「専門的な知識を持った教員が授業に参加してくれるので心強い」、「中学校教員は教科経営での良き相談相手となっている」、中学校の教員では、「子どもの個性や特性が入学前にわかるので、入学後の生徒指導がスムーズにできる」、「教科の系統性や小中の指導のつながりがわかり、互いの指導に生かすことができる」などの感想がありました。

また、児童においても「毎回、中学校の先生が来てくれるので、親しく話せるようになった」、「中学校に行くのが楽しみになった」など、前向きな感想が多く聞かれ、児童・生徒と教員双方にメリットが出ていることから、一貫した指導の効果が現れているとともに、中1ギャップの緩和にもつながっていると考えられます。



表－１ 令和４年４月現在の北海道内の小中一貫教育の設置・導入状況

	管内数	市町村数	学校数
義務教育学校	9	18	19
※うち十勝	1	2 (帯広、新得)	2 (大空、富村牛)
小中一貫型小・中学校	11	24	41 (中41校) (小54校)
※うち十勝	1	2 (幕別、陸別)	6 (中6校) (小10校)

#### 4 児童生徒数の推移及び将来の見通し

「幕別町人口ビジョン」における将来の人口の推計結果では、2045（令和27）年には、総人口が2割減少し、2060（令和42）年には20,000人を下回る見込みであり、幕別本町地区においても、出生数の減少及び少子高齢化などにより、地区全体では将来的に児童生徒数が減少する見通しとなっています。

##### (1) 幕別小学校

幕別小学校では、昭和53年度の新設開校以降、昭和56年度に児童数794人、学級数は22学級でピークを迎え、令和4年5月1日現在の児童数は159人、通常学級6学級、特別支援学級7学級（知的学級1学級、情緒学級3学級、言語学級1学級、肢体不自由学級1学級、病弱学級1学級）となっております。

今後は、令和27年度までに児童数は緩やかな減少傾向（23年間で約17.0%減）にあり、学級数は通常学級の6学級は変わらず、特別支援学級も現在と変わらず7～6学級で推移することが予想されます。

##### (2) 幕別中学校

幕別中学校では、昭和38年度に生徒数778人、学級数は18学級でピークを迎え、令和4年5月1日現在の生徒数は78人、通常学級3学級、特別支援学級2学級（知的学級1学級、情緒学級1学級）となっております。

今後は、令和27年度までに生徒数は緩やかな減少傾向（23年間で約12.8%減）にあり、学級数は通常学級の3学級は変わらず、特別支援学級に令和7年度に6学級に増加し、その後は5～4学級で推移することが予想されます。

表－2 令和4年5月1日現在の児童生徒数及び学級数

○幕別小学校

(単位：人、学級)

学年	通常学級						特別支援学級	合計
	1	2	3	4	5	6		
児童数	17 (7)	23 (4)	20 (8)	17 (4)	24 (7)	23 (5)	(知的) 6 (情緒) 23 (言語) 2 (肢体) 1 (病弱) 3 合計 35	159
学級数	1	1	1	1	1	1	(知的) 1 (情緒) 3 (言語) 1 (肢体) 1 (病弱) 1 合計 7	13

※通常学級の児童数の（ ）は特別支援学級の児童数

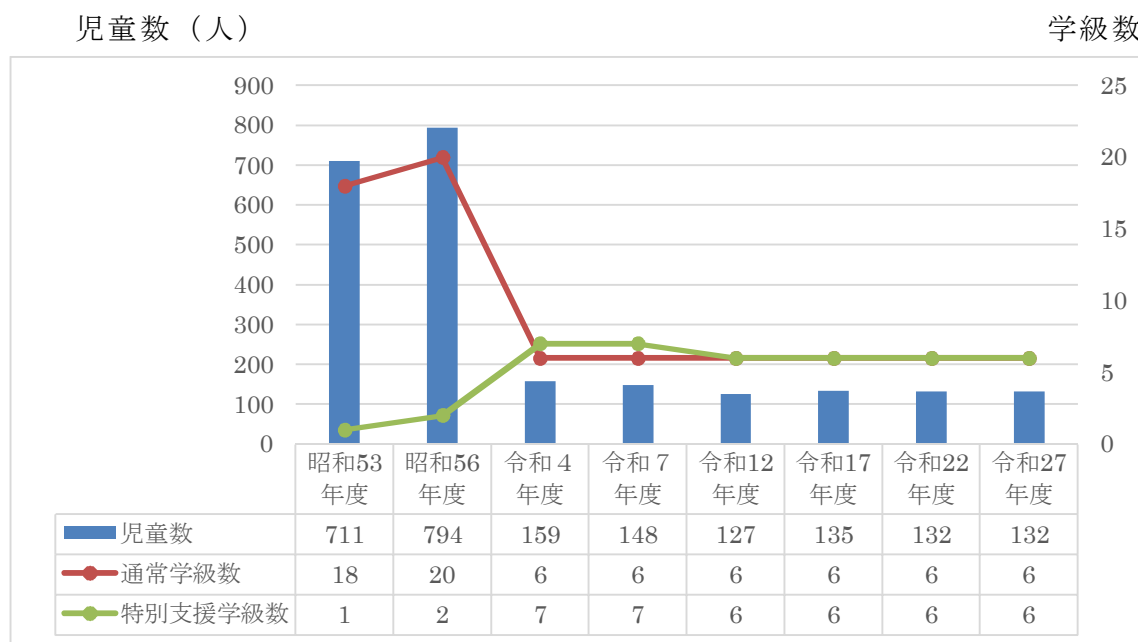
○幕別中学校

(単位：人、学級)

学年	通常学級						特別支援学級	合計
	1	2	3					
生徒数	18 (6)	26 (3)	25 (0)				(知的) 2 (情緒) 7 合計 9	78
学級数	1	1	1				(知的) 1 (情緒) 1 合計 2	5

※通常学級の生徒数の（ ）は特別支援学級の生徒数

図－１ 幕別小学校の児童数・学級数の推移と将来の見通し（R4.5.1現在）

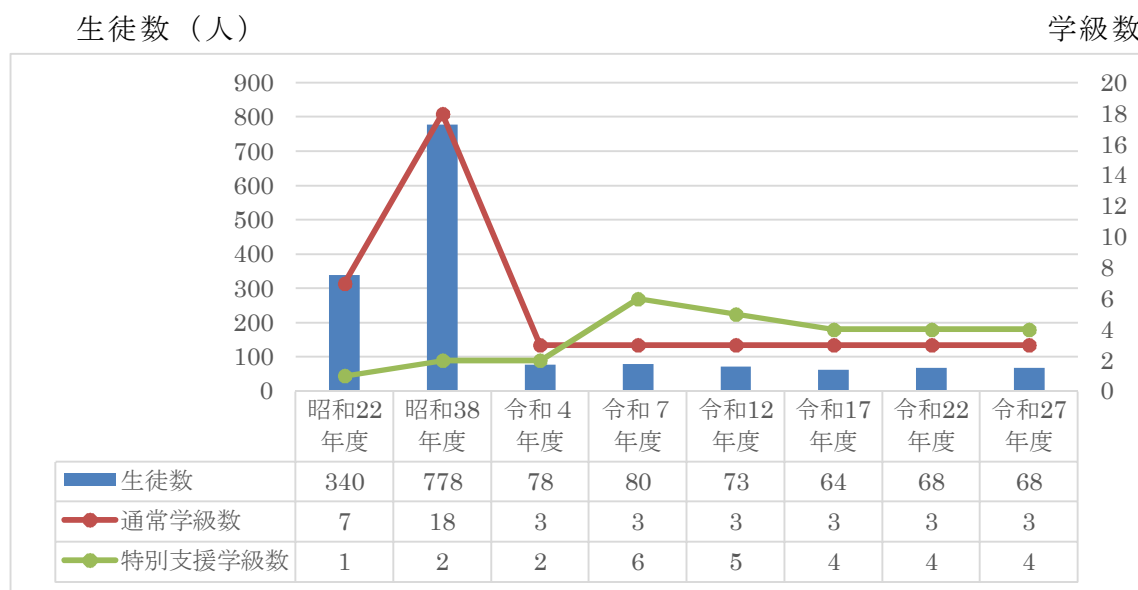


※R4年度以前は実績数。

※R7年度以降は「第2期幕別町子ども・子育て支援事業計画」の「人口の推計」と「幕別町人口ビジョン」から5年ごとの幕別市街地人口の各年齢の人口から算出。

※「特別支援学級数」のR5年度の第1学年以降の対象者は近年の状況から推計。

図－２ 幕別中学校の児童数・学級数の推移と将来の見通し（R4.5.1現在）



※R4年度以前は実績数。幕別小学校と同様に算出。

※「特別支援学級数」は幕別小学校から対象者がそのまま移行することで推計。

### (3) 通学区域の状況

通学区域は、幕別町立小、中学校通学区域規則（昭和55年教育委員会規則第3号）において定められ、幕別小学校と幕別中学校の通学区域（本町1・2・3、幸町、旭町1・2・4、錦町1・2、寿町1・2・3、宝町、新町、南町1・2、緑町1・2・3・4、相川・東・西・南・北、大豊、豊岡1・2、明野南・北、新川、軍岡、猿別、西猿別、新和）は一致しており、スクールバスを5路線（6台）で運行しています。

表－3 幕別小学校、幕別中学校スクールバス路線（R4.5.1現在）

	路線	経路（距離）	乗車時間	人数	備考
①	南勢幕別線	南勢→軍岡（27km）	26分	6人	
②	新和線	新和→猿別（40km）	38分	13人	
③	新川線1	明野（22km）	25分	2人	ジャンボタクシー
	新川線2	新川（18km）	10分	1人	ジャンボタクシー
④	大豊線	軍岡→大豊（20km）	20分	8人	ジャンボタクシー
⑤	相川線	相川（26km）	43分	10人	

### (4) 学校施設の状況

#### ① 幕別小学校

「幕別町学校施設の長寿命化計画」において、幕別小学校校舎（築44年）の劣化状況評価の健全度は、札内南小学校及び札内北小学校校舎とともに37点で最も低く、第1期（令和3～13年）に長寿命化工事を実施する計画となっており、建築年数や劣化度調査などの結果を踏まえ、令和4年度から2カ年で実施する札内南小学校の長寿命化改修工事の次期対象施設と検討してきたところであります。

また、屋内運動場（築43年）は、健全度が45点で他の学校施設と比較しても低い点数となっており、第1期（令和3～13年）で長寿命化工事を実施する計画になっております。

## ② 幕別中学校

幕別中学校校舎（築28年）は、健全度は59点、第1期（令和3～13年）に予防保全的な改修工事を実施し、第3期（令和23～33年）に長寿命化工事を実施する計画となっております。

また、屋内運動場（築33年）は、健全度が65点、第3期（令和23～33年）に長寿命化工事を実施する計画となっております。

表－4 幕別町長寿命化計画における学校施設劣化度評価結果（抜粋）

施設名	建物用途	階数	延床面積 (㎡)	建築年度	劣化状況評価					
					屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
幕別小学校	校舎	2	4,416	S52	D	C	C	C	C	37
	屋体	1	981	S53	A	C	C	C	C	45
幕別中学校	校舎	2	4,508	H5	D	C	B	B	B	59
	屋体	1	1,243	S63	B	C	B	B	B	65

※「A」：概ね良好、「B」：部分的に劣化

「C」：広範囲に劣化、「D」：早急に対応する必要がある

表－5 幕別町長寿命化計画における長寿命化の実施計画（抜粋）

施設名	建物用途	対応方針			
		第1期	第2期	第3期	第4期
		概ね10年以内に長寿命化改修	概ね20年以内に長寿命化改修	概ね30年以内に長寿命化改修	概ね40年以内に長寿命化改修
		R 3～12	R 13～22	R 23～32	R 33～42
幕別小学校	校舎	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
	屋体	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
幕別中学校	校舎	長寿命化(予防)		長寿命化改修	
	屋体			長寿命化改修	

## 5 施設整備の方向性

令和元年度から幕別小学校と幕別中学校は、小中一貫教育が推進され、義務教育9年間を見通した計画的・系統的な学習指導や生徒指導による学力向上や、いわゆる中1ギャップの緩和が図られてきております。

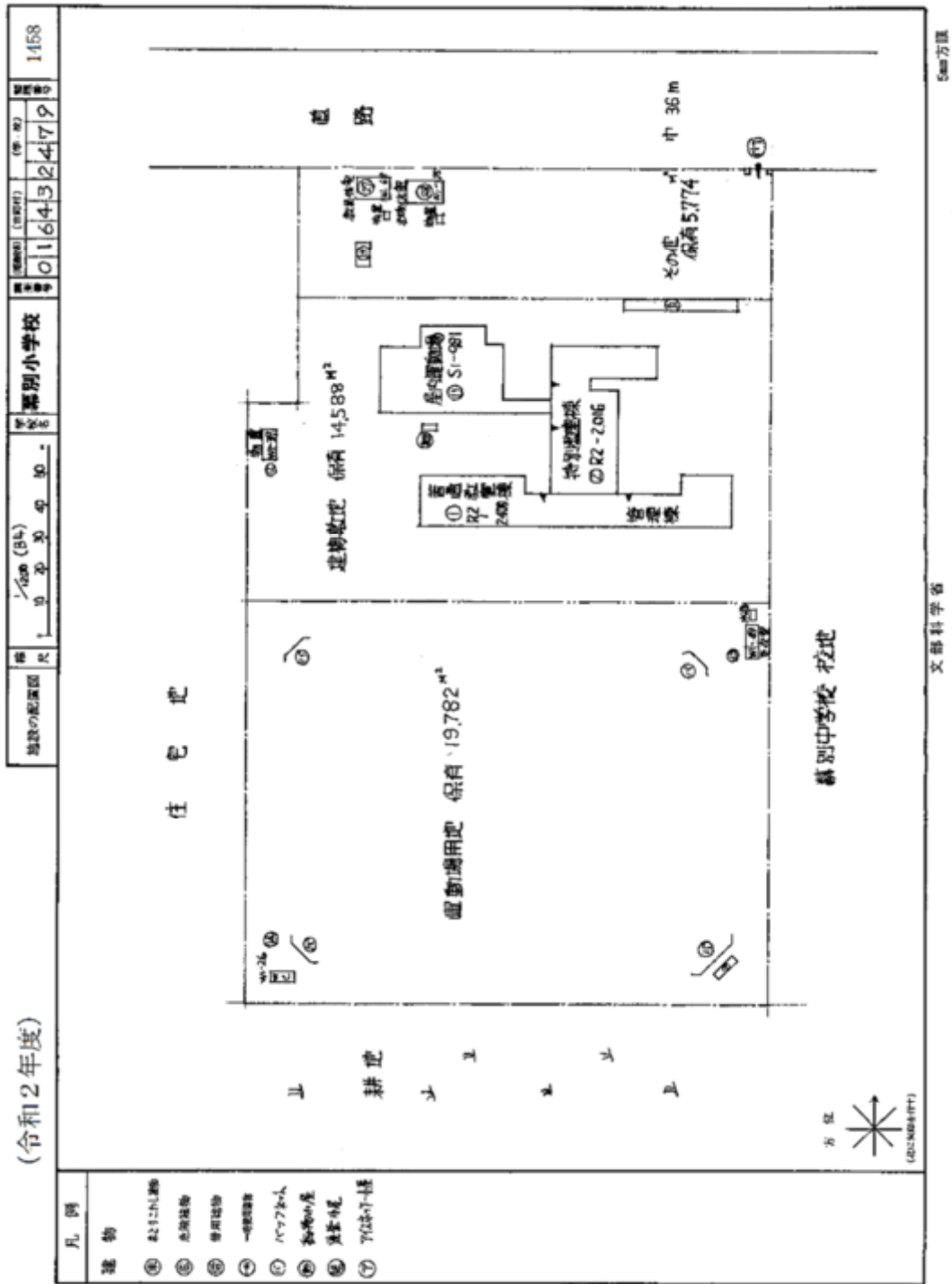
今後もさらに、小中一貫教育を進めるに当たり、次の3通りの施設整備の方向性が考えられます。

- (1) 「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」  
⇒幕別小学校と幕別中学校のそれぞれを使用。
- (2) 「施設一体型」の「小中一貫型小学校・中学校」  
⇒幕別小学校あるいは幕別中学校を活用。
- (3) 「義務教育学校」  
⇒幕別小学校あるいは幕別中学校を活用。

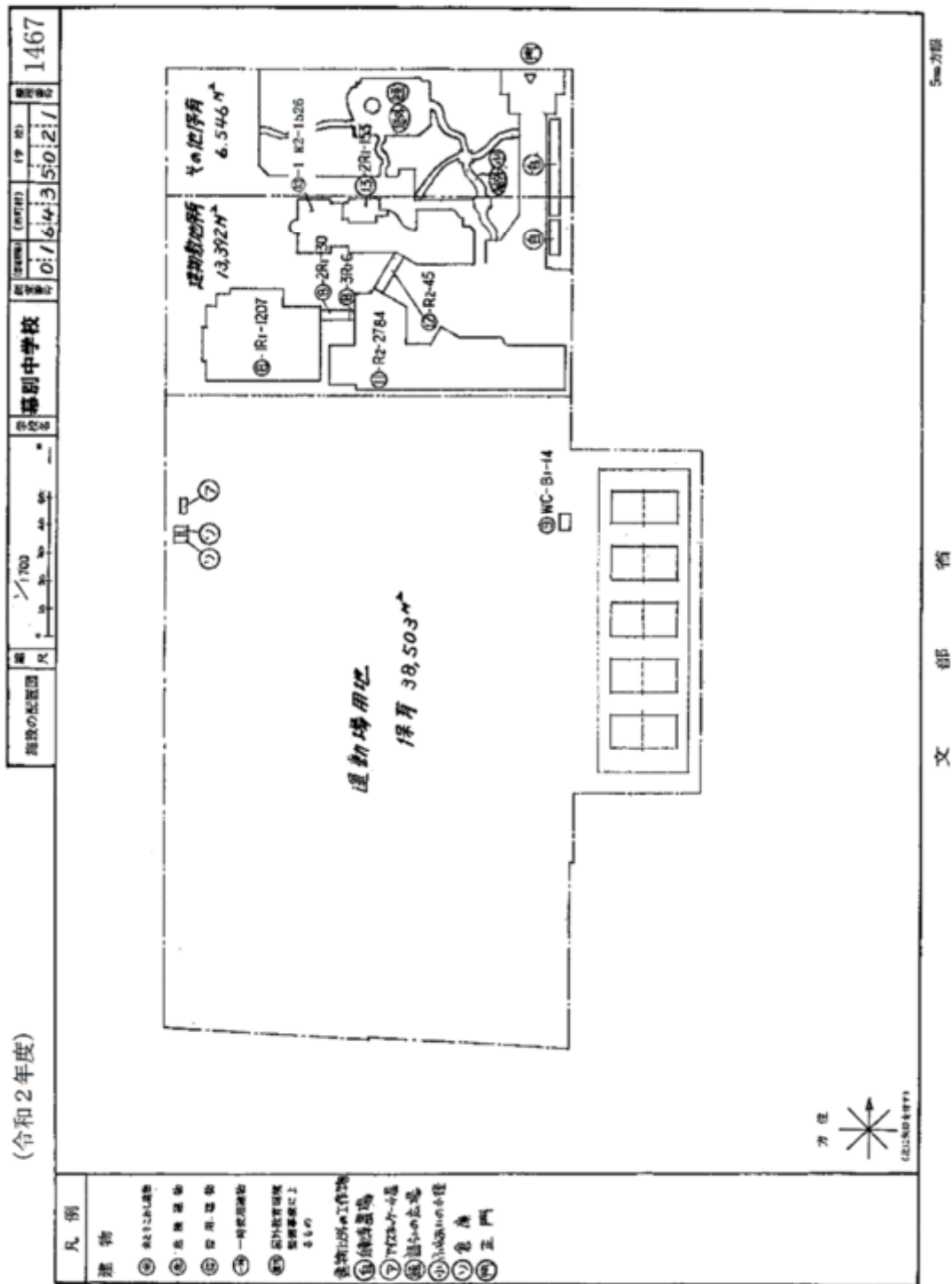
表－6 義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校の違い

	義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校	
		中学校併設型 小学校併設型	中学校連携型小学校 小学校連携型中学校
設置者	-	同一の設置者	異なる設置者
修業年限	9年 (前期課程6年+後期課程3年)	小学校6年、中学校3年	
組織・運営	1人の校長、1つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織	
免許	原則小学校・中学校の両免許状を併有 ※当面の間、小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能	所有する学校の免許状を保有していること	
の教育 特例 課程	一貫教育に必要な 独自教科の設定	○	○
	指導内容の入替え・移行	○	×
施設形態	施設一体型・施設隣接型・施設分離型		
設置基準	前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準を適用	
設置手続き	市町村の条例	市町村教育委員会の規則等	

参考 1 幕別小学校配置図



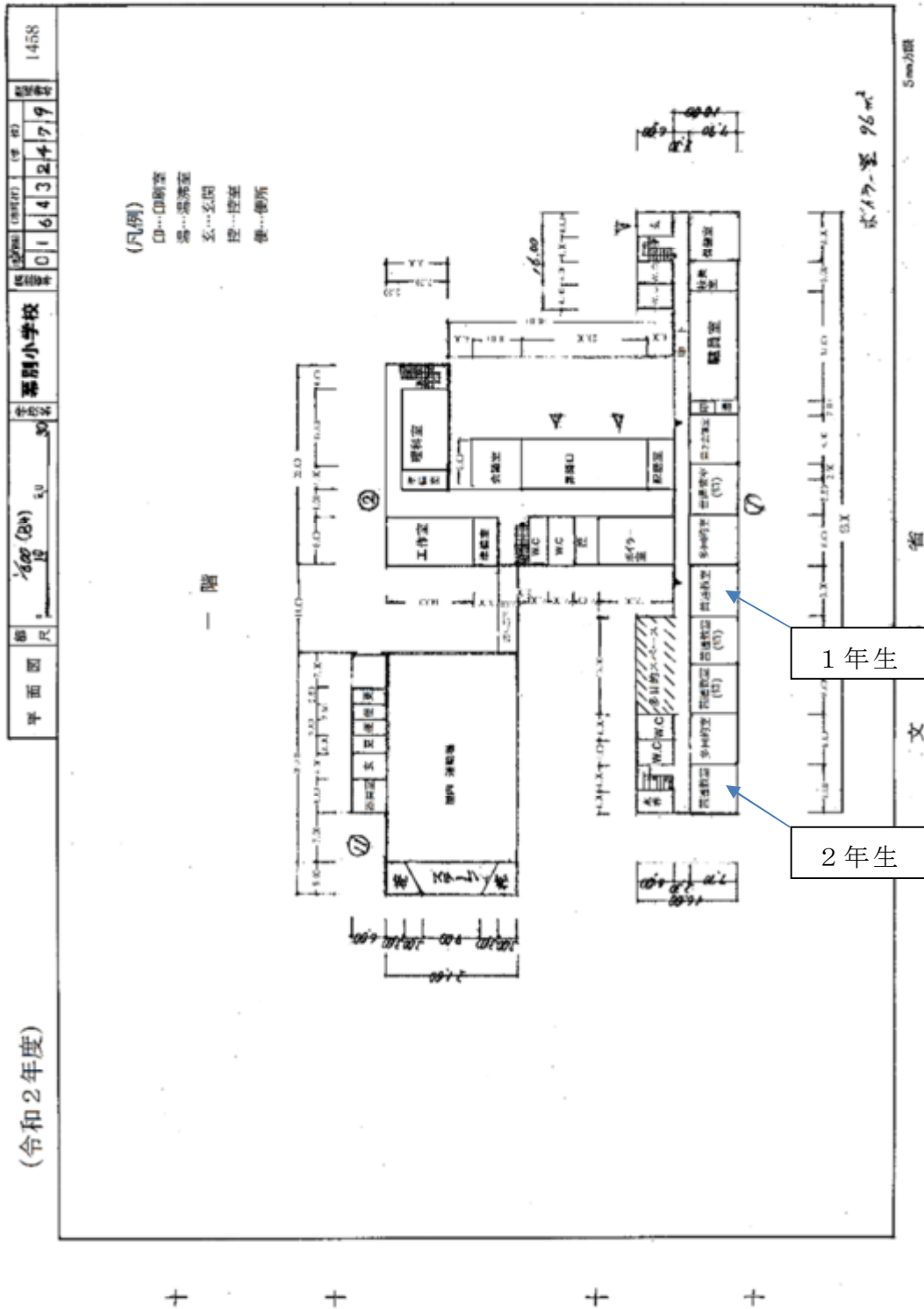
参考2 幕別中学校配置図





参考3 幕別小学校平面図

(1階)







(2階)

